

地域福祉計画の振り返り

基本理念	基本目標	基本方針	基本施策	地域福祉計画の具体的な取り組み	成果	課題
子どもからお年寄りまで、健やかで安心して暮らせるまちづくり	支え合うまちづくりを推進します	①福祉意識の向上 ②地域福祉推進体制の強化	自助	啓発資料等を確認して、地域福祉への関心を高めましょう 思いやりを持って共に支え合い、自主的に行動しましょう	・あったかふれあいセンター事業は9か所からはじまった活動は、住民への啓発等により、徐々に実施箇所現在11か所、自主グループ2か所となり、参加者も徐々に増えている(地域福祉活動計画成果等参照)。	①地域における支え合い、助け合いの輪を広げ、幅広く子育て世代にも意識啓発や地域の組織への参加を引き続き促進していく必要があります。 ②見守りマップ作りに取り組む地域を増やし、具体的な支え合いの必要性などの理解や関心を高める取組みの一層の推進が必要です。 ③各地区の集会所を活用したいろいろな啓発活動の実施や情報提供が今後も必要です。 ④認知症の見守りは、各地区ごとの研修や認知症カフェの情報提供を行うなど支え合う仕組みや、認知症見守りネットワーク協定事業を活用した地域福祉の啓発事業など一層の推進が必要です。
			共助	支え合う地域づくりを進めましょう 地域福祉活動への住民の参加を呼びかけましょう 地域で福祉についての話をする機会をつくりましょう	・さまざまな機会を通して集会所ごとに地域の支え合い、助け合いの必要性について啓発し、事業を行ってきました。 ・県立大とも連携し、座談会を5か所で行い、見守りマップ作り、「平松いきいき百歳体操」の立上げを行いました。 ・集会所で認知症の講座を実施し、地域づくり、地区での助け合いなどの支援を行いました。	
			公助	住民の地域福祉への関心を高めるために、まちの地域福祉活動の普及啓発に努めます 社会福祉協議会との連携の強化、地域福祉の充実に努めます	・平成28年度より集落活性化センターを活用し認知症カフェを設置しました。介護経験者が運営し、相談を実施しています。愛光園家族会との交流も行いました。	
			自助	困っている人を見かけたら、声をかけたり手助けしたりしましょう 町内で行われているボランティア活動や研修会へ参加し、仲間を増やしましょう 自分の持っている知識や技術を地域活動に生かしましょう	・アンケートでは、ボランティアをしているもしくはしたことがあると答えたのは、一般働き盛りの世代で58%であり、地域活動や福祉への関心も高いと思われる。子育て世代は35%とやや低いのが小学生は40.2%であった。小中学生は地域活動への参加が90%を超え、地域のつながりも残っており、地域づくりに参加できる企画なども住民と一緒に考えたい。	
	明日を担う人づくりを推進します	①福祉人材や組織の育成 ②福祉団体の活動の強化 ③青少年の社会参加の促進	自助	地域での声かけ、見守りネットワークづくりを推進します	・平成27年より小学校と連携し、認知症サポーター養成講座を実施しています。	①ボランティアセンターとして効果的な情報発信を行うなど機能強化を行い、各種団体への支援の充実を図っていく必要があります。 ②学校と役場、社会福祉協議会が連携し、小中学生を福祉の担い手として、あらゆる機会を通じた福祉活動の啓発を行う人材育成が必要で ③成年後見制度の周知啓発を行い、今後多くなってくるであろう制度の活用が行えるよう、さらなる住民への周知啓発を行い、法人後見などの検討も必要となっています。 ④成年後見制度の周知啓発を行い、今後多くなってくるであろう制度の活用が行えるよう、さらなる住民への周知啓発を行い、法人後見などの検討も必要となっています。
			共助	活動紹介のパンフレット作成などを行い、仲間の拡大に努めましょう 青少年と行政や地域団体等との連携を強化しましょう	・中学校、ボランティア団体とも連携し、健康まつり、一斉清掃など参加を得ながらさまざまな取り組みを実施しました。 ・成年後見制度など権利擁護に関する講座の開催や町内業者との認知症見守りネットワーク協定事業などを通して地域福祉の周知、啓発を行いました。	
			公助	自主的活動を助長し、活動組織の充実を図り、ボランティアやリーダーの育成の支援をします 活動に関する相談など、福祉団体の活動の充実が図られるよう支援します 青少年が地域の行事に積極的に参加するなど、まちづくりに対する関心を高め、社会参加を促していきます 青少年に対し、町内一斉清掃への参加を呼びかけます	・アンケートでは、ボランティアをしているもしくはしたことがあると答えたのは、一般働き盛りの世代で58%であり、地域活動や福祉への関心も高いと思われる。子育て世代は35%とやや低いのが小学生は40.2%であった。小中学生は地域活動への参加が90%を超え、地域のつながりも残っており、地域づくりに参加できる企画なども住民と一緒に考えたい。	
			自助	地域で孤立することなく、常日頃から、近所づきあいをしましょう 大人から進んであいさつをし、子どもとのふれあいを心がけましょう 子育てについての悩みごとを一人で抱え込まないで、身近な人に相談しましょう	・アンケートでは、ボランティアをしているもしくはしたことがあると答えたのは、一般働き盛りの世代で58%であり、地域活動や福祉への関心も高いと思われる。子育て世代は35%とやや低いのが小学生は40.2%であった。小中学生は地域活動への参加が90%を超え、地域のつながりも残っており、地域づくりに参加できる企画なども住民と一緒に考えたい。	
	安心して暮らせるまちを築きます	①見守りネットワーク活動の推進 ②子育て支援の充実	自助	地域において、隣近所とのあいさつや声かけに努めましょう 子ども、大人も、一緒に地区の集会所等へ集える機会をつくりましょう	・あったかふれあいセンター(サライト)はいきいき百歳体操を中心とした生きがいづくり、体力づくりなどを実施しながら、各地区で声を掛けを住民同士で見守りを行っている。 ・平成28年に平松地区、平成29年度に立町地区でサライトとして活動の立上げを実施。今までは住民のネットワークを活用しながら、住民が声を掛け合いながら実施できている。	①あったかふれあいセンターの活用や福祉協力員との連携で、さらなる見守りのネットワークの構築を行い、独居や高齢世帯、障害者の世帯などへの地域での見守り活動を充実し、孤立の防止を地域と一緒に考える必要があります。 ②子育て世代の交流の場を町内にも整備はしているが、十分に活用できておらず、交流の場を望む住民の声もある。子育て世代が気軽に話し合える場所を持ち、住民が主となって活動できる場を住民と共に創生していく必要があります。 ③今年度より実施している子どもの居場所づくり事業が学習面や遊びを通して学びを充実できるような多機関との連携をしていく必要があります。 ④ネットワーク会議など既存のネットワークで連携を持ち、介護予防や子育て支援などさらなる活用が必要です。
			共助	地域での声かけ、見守りネットワークづくりを推進します あったかふれあいセンターの子育て支援事業の周知を図ります 子どもから高齢者まで世代を超えて交流ができる行事を推進します	・あったかふれあいセンターを中心に集会所での活動を通して見守り活動や福祉協力員を各地区に配置し、民生委員や社会福祉協議会等と連携し、見守りや生活支援を行いました。 ・あったかふれあいセンターでの子育て支援事業では乳幼児の一時預かり、子育て世代の交流事業などを保健師を交えながら企画してきた。平成29年6月より1回の子どもの居場所づくりと学習支援事業に子ども食堂を加え実施しています。 ・平成27年より5地区で行った住民座談会により立ち上がった世代間交流事業や車通、若い世代を巻き込んだ神祭として大学生を巻き込んだ交流事業を実施。また、福祉マップ作りでは、見守り活動の強化を社会福祉協議会と連携しながら実施することができている。	
公助			地域で孤立することなく、常日頃から、近所づきあいをしましょう 大人から進んであいさつをし、子どもとのふれあいを心がけましょう 子育てについての悩みごとを一人で抱え込まないで、身近な人に相談しましょう	・地域福祉の一層の推進を図るために行政と社会福祉協議会、広域連合を含めたネットワーク会議を月1回実施し、情報共有と協働実践を行いました。		
自助			地震に備えて、家具等を固定するなど、転倒防止に努めましょう 避難経路や避難場所、防災用品を確認しておきましょう 災害等の緊急時には、隣近所で声をかけ合しましょう	・毎年、地域防災訓練や講演会、家具転倒防止や耐震化事業など防災に対する周知、啓発を実施した結果、アンケートで今回、災害時の備えについて聞いている中で、何も備えていないと答えた割合が、小中学生が一番多く24.4%、次いで子育て世代の14.9%、一般14%、高齢者では13.7%となっており、多くの方が何らかの備えは出来ており、関心も高い。しかし、全ての住民が何らかの備えができるように今後も啓発活動を実施しなければならない。		
災害に強いまちをめざします	①防災体制の強化 ②住民の防災意識の向上	自助	自主防災組織の体制を強化し、防災訓練への参加を住民に呼びかけましょう 地区内の災害弱者(要援護者)について把握をしておきましょう	・毎年、地域での自主防災組織を中心とした防災訓練および防災講演会等を実施し、住民への防災意識の強化を実施している。また、地震への備えには、家屋の倒壊防止や家具転倒防止などの制度を活用し、高齢者には訪問などを通じた周知、啓発を実施しています。 ・奈半利町では、災害時に活用できる情報の収集を行っている。平成28年度より災害時避難行動支援者名簿の作成をしている。	①防災についての関心は高まっている。全ての住民が自ら災害に備えることができるよう、さらなる周知啓発事業の継続が必要となっています。 ②自主防災組織と福祉行政との連携は今後ますます必要であり、住民総出で支えあう体制づくりの強化が必要です。 ③避難所運営、福祉避難所運営訓練実施の継続、災害時医療救護所の体制整備や体制強化が必要です。高知県、広域連合、安芸福祉保健所など関係機関と連携した体制づくりが必要です。 ④災害時要援護者の台帳整備を本年度システムを導入して構築する予定であり、平常時にも活用しながら、災害時避難行動支援者支援、名簿の管理などと合わせて、体制整備、強化が必要です。	
		共助	住民に避難場所の周知を図り、避難道や誘導灯などの整備に努めます 住民の防災意識を高めるため、啓発活動や、防災の講演会などを開催します	・平成29年度に災害医療救護所訓練を今年は県の防災訓練と合わせて安田町で開催し社会福祉士協議会、ボランティア団体の参加、地域の医療職への呼びかけを行い、地域住民の参加する防災訓練が実施できました。		
		公助	大人から子どもまで幅広い年代の防災訓練への参加を呼びかけます 自主防災組織の活動強化のための支援を行います 災害時要援護者台帳を整備し、緊急時の体制を整えます	・あったかふれあいセンターでの避難訓練の実施、福祉避難所訓練の実施などを行い、要配慮者の支援など体制強化を図っています。 ・福祉避難所開設、運営訓練も平成29年に愛光園で実施することができ、行政主導でなく施設職員が主となって、開設、運営ができるよう訓練をすることができた。		
		自助	規則正しい生活や、栄養バランスの取れた食習慣を身につけましょう 一年に一回は、必ず健診を受けましょう 無理のない、適度な運動を継続して行いましょう	・広報では毎回ヘルスメイトのコーナーを持ち、減塩や野菜たっぷりのメニューなどの紹介を行っている。今回のアンケートでは高齢者にはかかっていないが、健康を維持するためにしていることとして、減塩や薄味の食事に心がけ、栄養バランスにも気を付けている方の割合が65.3%あり、関心は高いと思われる。ヘルスメイトの事業としては、小中学生への食育事業や働き盛りや男の料理教室なども実施しており、各世代でのアンケートが必要であり、意見がきけなかったのは残念である。 ・健康づくり、運動などでは以前からの取組みに加え、高知県の健康パスポート事業も取り入れ、健康づくりへの関心をもってもらい、継続して自主的に運動ができるような企画を実施している。健康パスポートの取得者は、現在123名である。		
健康と長寿のまちづくりを推進します	①一人ひとりの健康づくりへの支援 ②健康長寿のまちづくりの推進	自助	食生活改善推進員の活動を理解し、事業等に積極的に参加しましょう 町が実施する集団健診への参加を呼びかけましょう 地域で行う介護予防事業への参加を呼びかけましょう	・特定健診やがん検診受診の啓発を健康づくり婦人会と連携して実施し、住民の健康づくりへの啓発を実施してきました。受診率も50%を超え、健診受診後のフォローに関しては、保健師を中心に重症化予防に向けた取り組みを行っています。 ・食生活改善推進協議会、広域連合とも連携し、認定こども園、小学校、中学校への食育事業を実施、また男の料理教室、働き盛り世代への生活習慣病予防対策も実施しています。	①奈半利町は心疾患や高血圧疾患が多く、透析実施者も県下でも多く、医療費も高額となっている。特定健診の受診率は50%を超えているが、住民の健康意識の向上に向けた取組みは今後、非常に大切となってくる。現状の食育事業などの継続と健康講座の開催、健康まつりなど多くの機会を健康維持、強化、透析患者の減少に向けた取組みを住民と一緒に進めていく。 ②介護予防等を広域連合やあったかふれあいセンターと連携し、健康寿命を延ばす企画の実施が必要で ③今後も健康パスポート事業の益々の周知、啓発を行い、自発的に健康づくりが行えるようサポート体制の強化が必要です。	
		共助	食生活改善推進員、健康づくりリーダー等の育成を図ります 各種検診に対する意識の向上に向けた取り組みを推進します 健診体制を強化し、生活習慣病予防対策に努め、住民の健康寿命の延伸を図ります	・あったかふれあいセンターを中心にいきいき百歳体操を実施し、健康講座等も開催し介護予防を実施しています。住民を主体とした健康づくり、介護予防の活動が実施できるよう、今後も支援を行っていきます。 ・各自の健康づくりのインセンティブ事業として、高知家健康パスポート事業を活用し周知、啓発を行っています。奈半利町では健康パスポート応募券の発行を行い、住民の自発的な健康づくりのサポート体制づくりを行っています。		
		公助	利用できる福祉サービスや、福祉制度の知識を身につけましょう 趣味の場や、興味のある活動に積極的に参加しましょう いつまでも、健康で自立した生活が送れるよう、百歳体操に参加しましょう	・あったかふれあいセンターは現在拠点1ヶ所、サライト11ヶ所で運営を実施し、住民の生きがいづくりの推進、介護予防等の実施を行っている。包括支援センターや各種関係機関とも連携して、地域づくりを実施している。		
		自助	利用できる福祉サービスや、福祉制度の知識を身につけましょう 趣味の場や、興味のある活動に積極的に参加しましょう いつまでも、健康で自立した生活が送れるよう、百歳体操に参加しましょう	・高齢者のネットワーク会を毎月開催し、関係機関で情報共有、事業の検討を行い、住民を孤立させない仕組みづくりや地域包括ケアの実施に向けた仕組みづくりを行っています。		
笑顔で暮らせるまちをめざします	①あったかふれあいセンター事業の推進 ②生きがいづくりの推進	自助	利用できる福祉サービスや、福祉制度の知識を身につけましょう 趣味の場や、興味のある活動に積極的に参加しましょう いつまでも、健康で自立した生活が送れるよう、百歳体操に参加しましょう	・あったかふれあいセンターは現在拠点1ヶ所、サライト11ヶ所で運営を実施し、住民の生きがいづくりの推進、介護予防等の実施を行っている。包括支援センターや各種関係機関とも連携して、地域づくりを実施している。	①住民主体での活動が行えるよう住民同士が声を掛け合いながら、参加者を増やし、あったかふれあいセンターの機能強化を行っていく必要があります。 ②ネットワーク会などを活用し、広域連合など関係機関との連携強化し、生きがいづくりなどの活動を行いながら、町全体で介護予防の周知、啓発を図ることがますます必要です。 ③独居世帯や生活困窮世帯も多中で、地域で孤立を防ぐための事業等の体制強化(生活困窮者支援事業、障害の理解、成年後見事業などの周知、啓発など)事業の充実が必要です。	
		共助	地域での福祉活動へ住民の参加を呼びかけましょう 閉じこもりがちな人に声をかけ、外出を促しましょう あったかふれあいセンターの事業が、地域で自主的に進めるようサポーターとして協力しましょう	・あったかふれあいセンターは現在拠点1ヶ所、サライト11ヶ所で運営を実施し、住民の生きがいづくりの推進、介護予防等の実施を行っている。包括支援センターや各種関係機関とも連携して、地域づくりを実施している。		
		公助	各種活動の普及啓発や取り組みの内容の紹介に努めます 高齢者の交流と生きがいづくりを支援します	・あったかふれあいセンターは現在拠点1ヶ所、サライト11ヶ所で運営を実施し、住民の生きがいづくりの推進、介護予防等の実施を行っている。包括支援センターや各種関係機関とも連携して、地域づくりを実施している。		
		自助	利用できる福祉サービスや、福祉制度の知識を身につけましょう 趣味の場や、興味のある活動に積極的に参加しましょう いつまでも、健康で自立した生活が送れるよう、百歳体操に参加しましょう	・あったかふれあいセンターは現在拠点1ヶ所、サライト11ヶ所で運営を実施し、住民の生きがいづくりの推進、介護予防等の実施を行っている。包括支援センターや各種関係機関とも連携して、地域づくりを実施している。		

地域福祉活動計画の振り返り

基本理念	基本目標	基本方針	基本施策	地域福祉活動計画の具体的な取り組み	取り組みの成果	課題
子どもからお年寄りまで、健やかで安心して暮らせるまちづくり	支え合うまちづくりを推進します	支え合うまちづくりを推進します	①福祉意識の向上 ②地域福祉推進体制の強化	①福祉だよりの発行は、社会福祉協議会や福祉団体のこと、ボランティア活動などを、継続的に町民に伝えるため、発行回数を増やす必要があります。 研修会も町民が課題としているあいさつやゴミ問題を取り入れ、自助・共助・公助の役割を認識しながら、町民が参加できる地域福祉活動へとつなげていきます。 ②地区自治会への働きかけと研修会への参加を要請していきます。 地区ごとのあったかふれあいセンターのサテライト(各集会所)に自治会組織として参加要請をしていきます。 また、心配ごと相談や生活福祉資金制度の利用拡大、自立した生活能力が著しく困難になってきた方への日常生活自立支援事業の啓発、普及を進めていきます。	①福祉だよりの発行は年一回の発行(1月発行)と変わりはないが、29年度からあったかふれあい新聞を年一回発行(11月発行)。また、あいさつやゴミ問題に関する研修会は開催できていないが、小学校のあいさつ運動に参加し、交流を深めていく。ゴミ問題については広報等での周知を引き続き行っていく。 ②車瀬・百石・中里、樋ノ口・上長田・下長田、平松・弓場の3地域については、地区に呼びかけを行いサテライトへの参加を促している。 特別合同心配ごと相談所年/1回の開設や、生活福祉資金制度への相談数が増加傾向にあり、制度への認知は進んできたが、利用に至らないケースは、生活困窮者自立支援事業へと繋げている。又、日常生活が困難になってきた方への日常生活自立支援事業では、利用者が増加し啓発の効果がでていく。	①あったかふれあいセンターは周知されているが、どのような活動を行っているか、住民全体に知ってもらい、新たな参加につなげるようあったかふれあい新聞を含め、細やかな情報発信を行う必要があります。 ②10ヶ所のサテライトでは活発に活動を行っているが、今後も続けていく上で、互いの見守りもふくめた地域活動に発展していくためには、自治会との協力も必要です。 ③日常生活自立支援事業では、利用者が増加傾向にあり支援員一人で4～5人の対応となっています。今後、増えていく傾向にあると思われる為、支援員の人数増加も検討するとともに、困難事例が多くなってきている為、より一層関係機関との連携が必要です。
	支え合い、助け合えるまちづくり	明日を担うまちづくりを推進します	①福祉人材や組織の育成 ②福祉団体の活動の強化 ③青少年の社会参加の促進	①広報等によるボランティア活動の啓発や、ボランティア育成のための養成講座や研修会を行います。 また、地区自治会によるサテライト(各集会所)の運営協力を働きかけていきます。 ②新規会員の加入促進のための新たな事業計画の創設や魅力のある生きがい活動や親睦活動を取り入れていきます。 具体例として、昼の部・夜の部の料理教室、魅力ある旅行、花作り、園芸講習会、自慢大会等。 ③福祉活動推進校として、毎年福祉教育が行える体制づくりや、学校から発信してベルマーク集め、あいさつ運動を支援していきます。 また、小・中学校で行われている、学習発表会や定期音楽演奏会に町民がだれでも参加できるよう、啓発していきます。 社会福祉協議会や行政が行う研修会や事業に小・中学生が参加できるよう、働きかけていきます。	①各団体でボランティア活動を行うと共に、人材確保の為、声掛け等で啓発活動を行っている。 地区運営によるサテライトの開設に繋がっている。 各サテライトにて認知症サポーター養成講座開催 高齢消費者被害防止サポーター養成講座開催、サテライト自主運営グループ1ヶ所開設 ②老人クラブの名称に通称よさこいクラブと入れ、新規会員が加入しやすい環境を整えた。また、大会等に参加ができる新たなスポーツを導入し加入促進につなげる。 各団体が新たな事業(子ども居場所づくり事業)へボランティアとして参加協力につながり、団体としての活動も活発に行われている。 ③福祉活動推進校として、中学校との町内美化活動の協力や、小学校の一日先生としての学習会、サロンでの高齢者との交流会など行っている。	①新しいボランティア加入はあるが、高齢化や業務の方が多く、若い世代の方が関わられるボランティア活動の場が必要です。ボランティアセンターの整備を行います。 ②新スポーツクラブを定期化し新規加入者に繋がります。 ③奈半利町で生まれてよかったと思えるような、自然や伝統を活かした活動を学校等と連携しながら今後も継続していく。海辺の自然学校や生活体験学校などを活用した、子どもたちと遊びを通じてボランティア等の育成をおこなえるよう学校、父兄との連携も必要。若い世代との連携を通して、地域のボランティア事業等の周知、啓発および参加の呼びかけなどを実施できる体制整備を行います。
	安心して暮らせるまちを築きます	安心・安全なまちづくり	①見守りネットワーク活動の推進 ②子育て支援の充実	①現状の見守りネットワークに、地区ごとに福祉委員を置き、定期的に個別ネットワーク会議を行っていきます。 以前から隣近所で行われてきた、相互の生活支援にも、積極的に後押しを行います。 ②よりよい子育て支援を行うために、共稼ぎの世帯への働きかけが必要であり、個別の事前支援の必要性が考えられます。 また、同じ悩みごとを抱える親たちの呼びかけで、参加者の増加と、その組織化にも取り組み、あったかふれあいセンターの利用拡大を進めていきます。	①モデル地区での福祉協力員を中心とした、地域の見守り体制づくりのワークショップを行った。個別の見守りの為、地域での集いを行うこととなりサテライト(集会所活動)開設となりました。 ②子ども居場所づくり事業(子供食堂・学習支援)の開設。H29.6月より始まった。 学校休業日の居場所として、又、学習支援員を配置し学力向上や、不登校の子どもへの支援を行いました。	①町部では、独居高齢者や転入転出者も多く、集いの場が無い。地域での見守り体制を整える上で、地域での座談会やマップ作り等を行いながら、住民の意見を取り入れた集える居場所を整備する必要があります。 ②定期的な子供の参加はあるが、他の子供や父兄にも参加の呼びかけが必要です。また、あったかふれあいセンターにおいては、乳幼児と父母親の集いの場はあるが、参加が少なく参加者増加の為、情報発信をしていく必要があります。
	災害に強いまちをめざします	災害に強いまちをめざします	①防災体制の強化 ②住民の防災意識の向上	①虚弱高齢者や障害者は、災害時弱者とほぼ同じ対象者となりえるので、社会福祉協議会と自主防災組織と連携を取りながら、情報を共有し、緊急時の体制づくりを行っていきます。 自主防災組織の相互の連携や公的機関との援助関係等を通じて、体制の整備を進めます。 ②各個人・家庭で行える災害への備えを啓発強化していきます。 また、自主防災組織独自の計画で、災害弱者への援護活動が行えるよう、講演会や実技指導、啓発活動を行っていきます。	①社会福祉協議会における災害ボランティアセンター体制強化事業として、初期行動計画を策定し災害時、迅速に地域住民の生活復旧、復興に着手できるよう体制を整えた。 あったかふれあいセンター拠点における避難訓練の実施しました。 ②訪問活動時において災害への備えとして、行政の行っている家具転倒防止器具設置事業や耐震診断補助金の案内を行い申請を促進している。	①あったかふれあいセンター拠点、サテライトでの定期的な避難訓練が必要です。 ②訪問事業を通じた防災への意識の向上に向けた取り組み強化が必要です。
	健康と長寿のまちづくりを推進します	健康と長寿のまちづくりを推進します	①一人ひとりの健康づくりへの支援 ②健康長寿のまちづくりの推進	①病院にかかっている、年に一回は健診を受けることや、無理のない適度な運動を進めるための啓発や個別指導を行っていきます。 ②他市町村の医療機関を受診する場合は、「かかりつけ医」からの紹介で受診するよう広報等での啓発や、保健師からの指導を進めていきます。 また、町内での集団健診の受診率を上げるために、各種集いや各団体の総会等いろいろな機会を捉えて、啓発活動を進めていきます。 また、食生活改善推進員や健康づくりリーダー等の育成に協力していきます。	①百歳体操の促進に努め個別に年2回体力測定を行い、リハ専門職に体力評価を行ってもらううえで指導をうけている。 ②食生活改善推進員さんとの協力によるサロンやサテライトでの低栄養予防教室等の高齢者との勉強会を開催しました。	①地域での見守り体制を整えていく為に、町部を中心に自主運営を含めたサテライトづくりが必要です。 ②リハ専門職による個別体力測定を活かして、百歳体操を中心とした介護予防の促進に繋がります。 ③各種団体との連携による健康づくり、生きがいづくりの充実を図ります。
	生涯笑顔で健康に暮らせるまちづくり	笑顔で暮らせるまちをめざします	①あったかふれあいセンター事業の推進 ②生きがいづくりの推進	①あったかふれあいセンターでは、住民の希望するメニューを取り入れ、健康と生きがいづくりに取り組んでいます。 サテライト(各集会所)では、全地域に集える場所づくりを進めるため、地域ボランティアや地区自治組織の協力のもと、参加者の増員を図り、世代間交流の出来る場所として、健康と生きがいづくりに取り組んでいます。 ②町内で行われている、様々な教室等に町民が参加できやすい体制づくりと、啓発を行っていきます。 また、町民や団体に所属する方々の意見を取り入れながら、新規事業の展開が進むよう、世代や趣味に応じた生きがいづくりに取り組んでいます。	①拠点(保健センター)でのサロン活動では介護予防を目的とした、いきいき百歳体操を中心に、音楽療法やゲームなどを行っている。サテライト(各集会所)は現在11ヶ所となり、今後も自主運営できる箇所も含め集いの場として地域全体に広めていきます。 ②各団体での新規事業として、老人クラブによる新スポーツ教室(吹き矢、ダーツ、わなげ、シャッフルボール)の開催。月2回予定	④老人クラブへの支援体制を充実し、加入者増の取り組みを実施します。

地域福祉活動計画振り返り②

あったかふれあいセンター利用者人数

機能	25	26	27	28	29	合計	利用者割合
児童	3,497	3,561	3,059	2,777	2,134	15,028	20%
障害者	640	603	392	339	420	2,394	3%
乳幼児	68	9	2	41	10	130	0%
父兄	60	1	1	39	0	101	0%
高齢者(サテライト含む)	2,680	2,810	2,776	2,751	3,307	14,324	20%
配食	3,153	2,923	3,563	3,934	3,455	17,028	22%
サロン(拠点)	2,404	2,793	2,976	3,015	3,049	14,237	19%
訪問	524	956	1,003	974	757	4,214	6%
生活支援	316	254	298	289	192	1,349	2%
その他(イベント等)	954	913	1,239	1,371	1,437	5,914	8%
合計	14,296	14,823	15,308	15,530	14,761	74,718	100%

	あったかふれあいセンター	地域支援	日常生活自立支援事業	生活困窮者自立支援事業	子ども居場所づくり事業	老人クラブ
H25	サテライト 9ヶ所 【車瀬 中里 百石 樋ノ口 法恩寺 東浜 六本松 宇川 加領郷】 ・口腔ケア評価、歯科指導 (中芸包括支援センターより歯科衛生士派遣) ・各サテライト評価表作成 ・体力測定	地域見守りネットワークづくり 【樋ノ口・上長田・下長田】 高知県立大田中教授を講師にワークショップ3回開催 地域目標「三世代交流で地域づくり」	専門員1名 支援員4名 配置 利用者 10名			
H26	サテライト ・口腔ケア評価、歯科指導 (中芸包括支援センターより歯科衛生士派遣) ・各サテライト評価表作成 ・体力測定 ・防犯教室(安芸警察)	【樋ノ口・上長田・下長田】 三世代交流会開催 参加者50名 小学校夏休み地区行事に地域での参加協力 【車瀬・中里・百石】 高知県立大田中教授を講師にワークショップ3回開催 地域目標「人・地域 生き生き支え合い」	利用者 11名			通称 よさこいクラブ
H27	サロン 利用者増加の為、入浴利用日増加 週4回から週5回 サロン・サテライト ・生涯骨太・低栄養予防教室(食改) ・体力測定・・・リハ専門職による評価、百歳体操指導(包括) ・・・転倒予防講座	多気坂本神社の神祭へ高知県立大生参加協力 【樋ノ口・上長田・下長田】 三世代交流会開催 参加者49名	利用者 11名	主任相談員1名 就労相談員1名 配置 相談件数 97件		
H28	サロン・サテライト ・生涯骨太・低栄養予防教室(食改) ・体力測定・・・リハ専門職による評価、百歳体操指導(包括) ・・・転倒予防講座 ・各サテライト評価表作成 ・認知症講座	三世代交流会開催 参加者37名 福祉協力員の設置 町内各地区に 23名 【平松・弓場】 高知県立大田中教授を講師にワークショップ2回開催 福祉協力員を中心と見守りマップづくり 平松・弓場地域集いの場としてサテライト開設	利用者 14名	相談件数 161件		
H29	サロン・サテライト ・生涯骨太・低栄養予防教室(食改) ・体力測定・・・リハ専門職による評価、百歳体操指導(包括) ・・・転倒予防講座 ・各サテライト評価表作成 ・認知症サポーター養成講座 サテライト平松開始 立町(自主グループ) サテライト 10ヶ所 1ヶ所	【樋ノ口・上長田・下長田】 三世代交流会開催 参加者47名	利用者 14名	相談件数 75件 就労訓練事業所開設	学習支援・子ども食堂開設	新スポーツ クラブ開設